













































23時45分。基子の住むマンション。



神代絵里奈

「くかあ～……くかあ～……zzz」



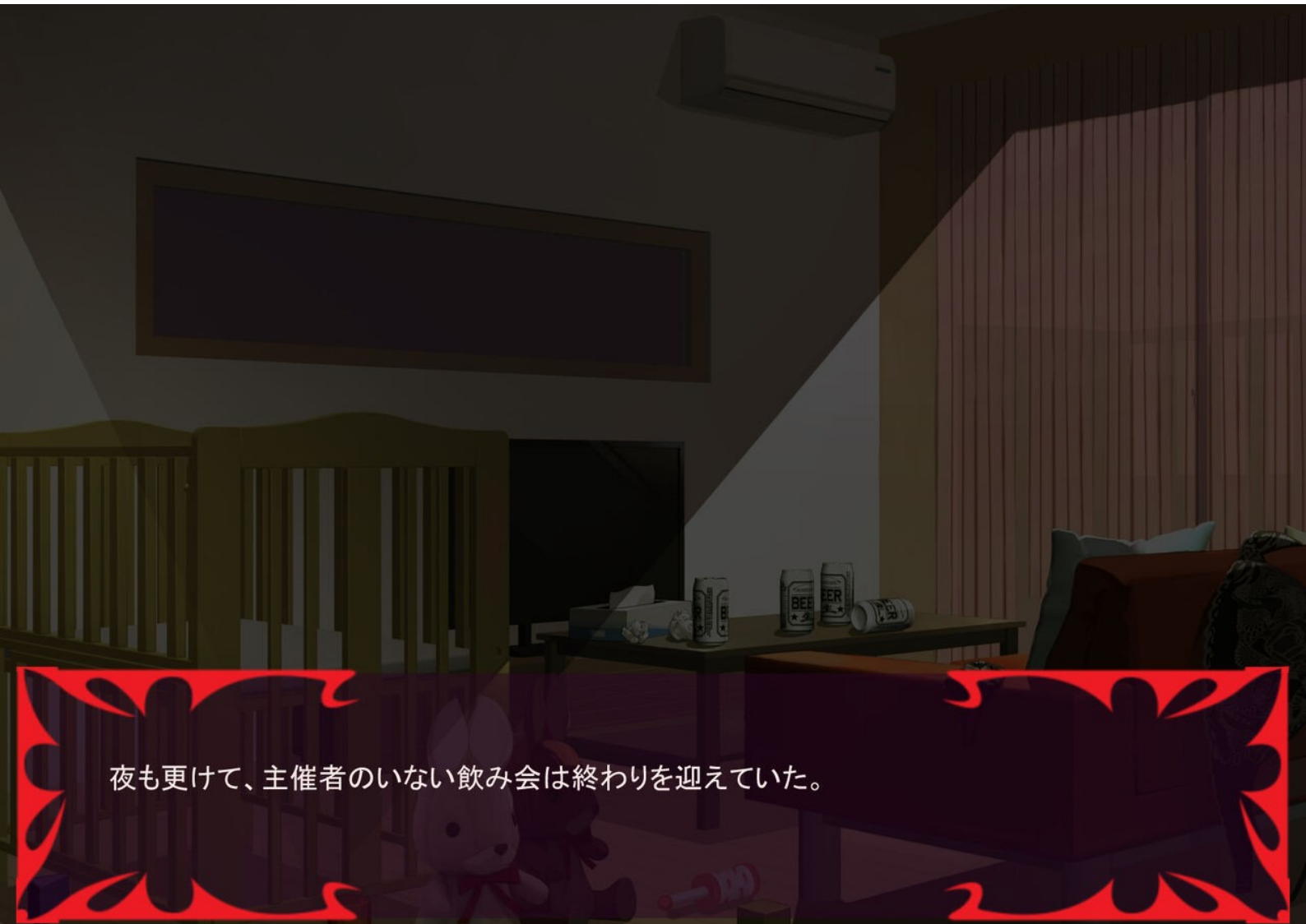
児玉ひかり
「絵里奈さん。もしも〜し絵里奈さ〜ん。
寝るならお布団の方で寝てください。風邪ひきますよ〜」



神代絵里奈

「..んあ...むにやむにや...。

..基子のヤロウは..いつ帰ってきやがんだ...くかあ～...くかあ～.....zzz」



夜も更けて、主催者のいない飲み会は終わりを迎えていた。



黒瀬由羅
「それじゃ、私はそろそろ」



児玉ひかり
「あ、由羅さんお帰りですか？」



黒瀬由羅

「ええ。明日も朝から仕事なの。
隊長さんに会えなかったのは残念だったけど」



児玉ひかり
「そうでしたか……。
あ…でもまたいつでも来てくださいね。基子さんもお喜びになるでしょうし」



黒瀬由羅
「そう…ね。それじゃ隊長さんによろしく」



児玉ひかり
「はい」



神代絵里奈

「..なあ～んだよ由羅..むにやむにや..。

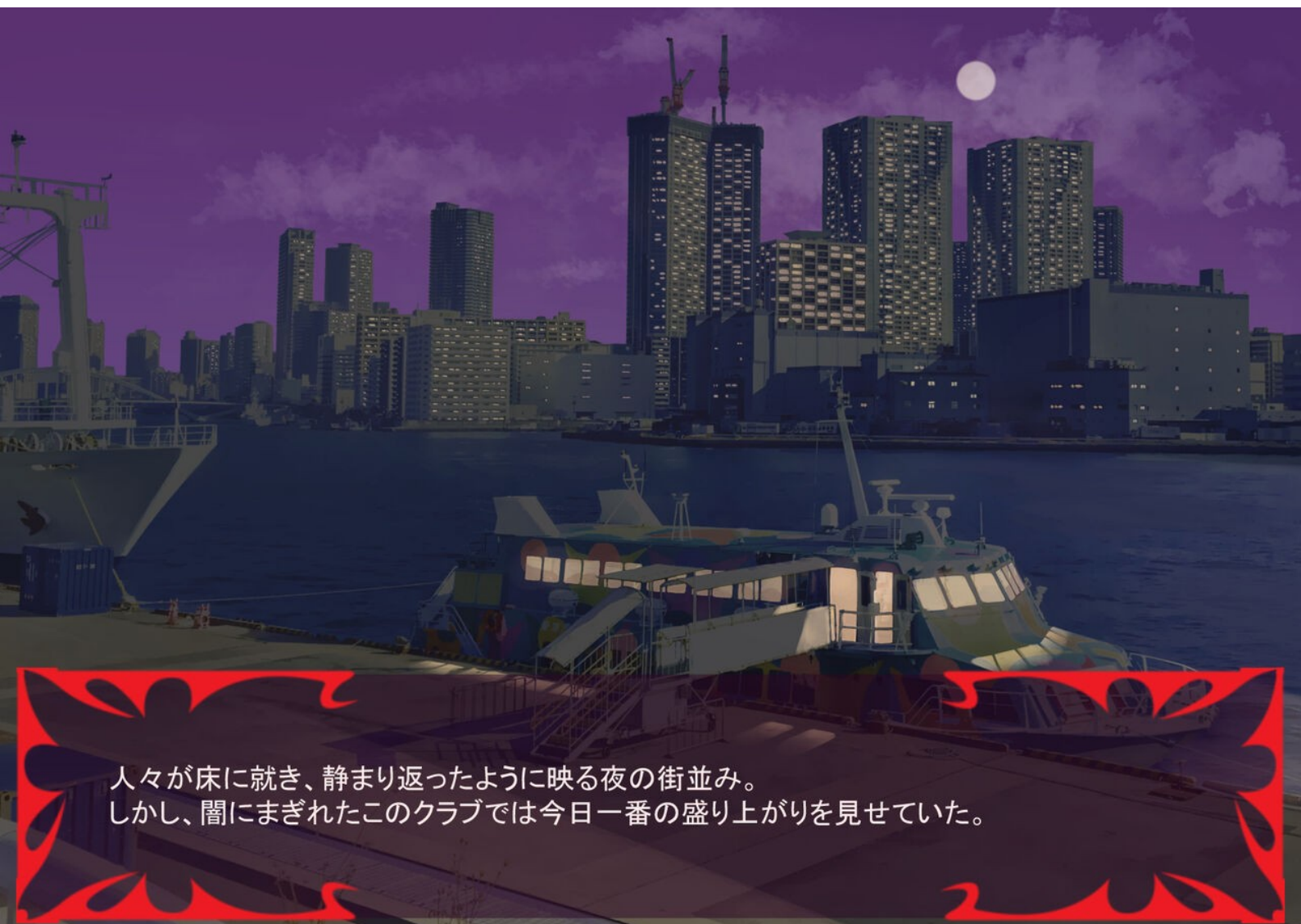
..もうちょっとゆっくりしてけて..くかあ～..くかあ～.....zzz」



児玉ひかり
「ほら、絵里奈さんはお布団に行きますよ～」

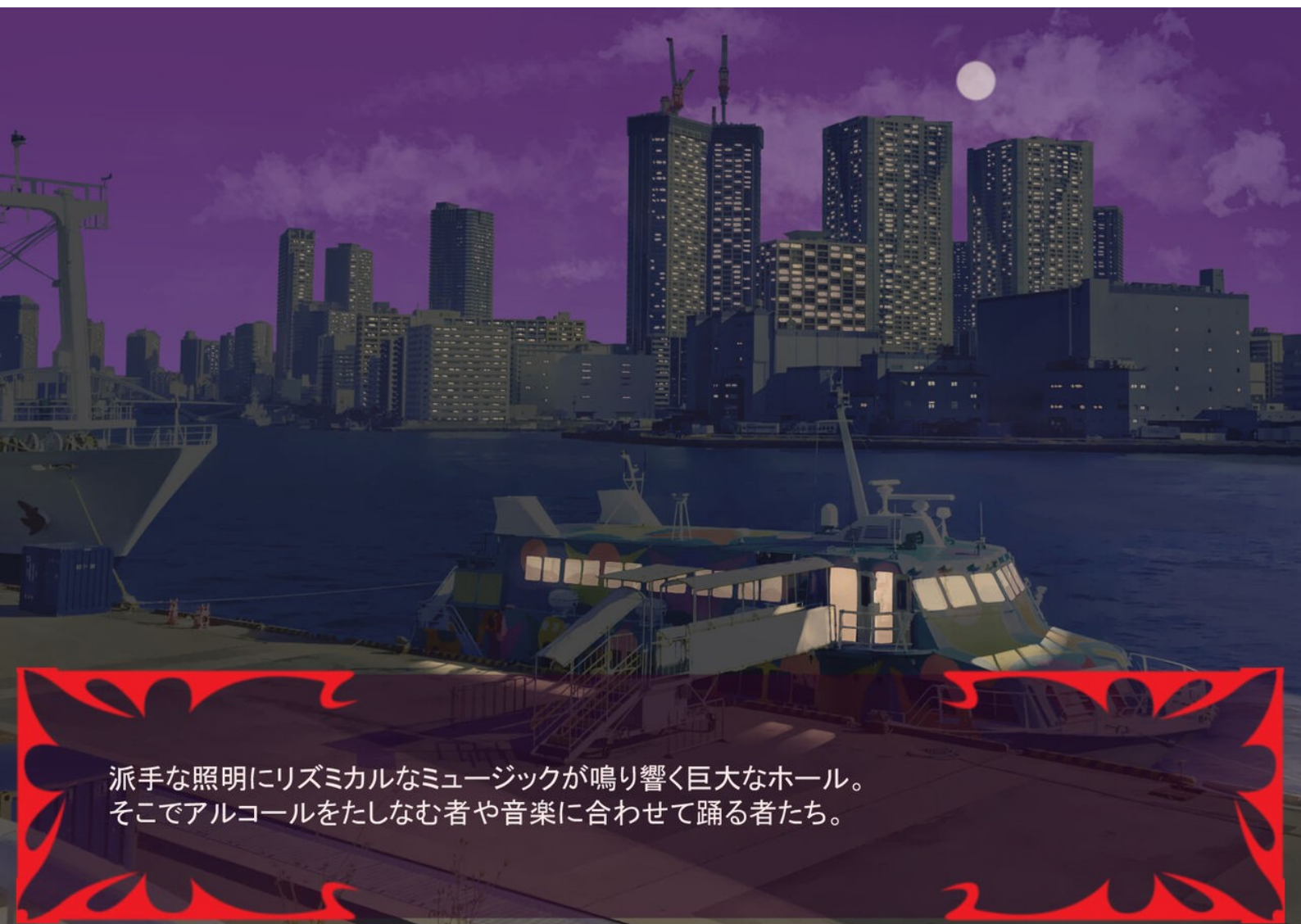


23時50分。怪しげな高級クラブ。



人々が床に就き、静まり返ったように映る夜の街並み。
しかし、闇にまぎれたこのクラブでは今日一番の盛り上がりを見せていた。





派手な照明にリズムカルなミュージックが鳴り響く巨大なホール。
そこでアルコールをたしなむ者や音楽に合わせて踊る者たち。



そしてそこから、個室に姿を消していく男女も少なくない……。

ドスツ・・・!!、ドスツ・・・!!、ドスツ・・・!!、ドスツ・・・!!、ドスツ・・・!!。



Yカップの女便利屋

「あああっ!!、あっ!!あああっ!!、ああんっ!!、あっ!!、あっ!!、あっ!!、あああっ!!」



腕利きの情報屋

「はあっっっ！、はあっっっ！、はあっっっ！、はあっっっ！、はあっっっ！」



ジュブ…ツ!、ジュブ…ツ!、ブジュ…ツ!、ブチュ…ツ!、ジュブ…ツ!、ブジュ…ツ!。



魔夜基子

「ふあああっ!!、ああっ!!、はあっあっああっ!!、ああっ!!、ああっ!!、ああんっ!!」



亀井健三

「ふうっああっ！、はあっ！、はあっ！、はあっ！、ああっ！」



各個室の中でも、注目すべき人物がこの2人。
Yカップの超爆乳エージェント【魔夜基子】と小柄で好き者の情報屋【亀井健三】だ。



陸軍の中佐として、凄腕のエージェントとして、
数々の修羅場を乗り越えてきた基子が、
このような男に抱かれる姿など誰もが想像すらしないことだ。



だが、亀井と一度でも体を重ねたことのある女性であれば、
この状況をすぐに理解できるだろう。



亀井健三

「はぁっ！、はぁっ！、はぁっ！、どうだあ？、あっしのモノは奥まで届いてやすかあ？」



魔夜基子

「ああんっ!!、あっ!!、あああっ!!、..来てるっ!!、
はあっ!!、お腹までっ硬いのズンズン来てるっ!!、あっ!!、あああっ!!」



亀井健三

「ああ・ったく、この反応・たまらねえなあ……。・そら・っ!!、そんなに奥がいいのかっ!!」



魔夜基子

「ああああっ!!、イイっ!!。

んあっ!!、硬いのでゴリゴリ擦られてっ!!奥突かれるの良すぎるうっ!!」



亀井健三
(ゾクゾク・・・ツ!!)



亀井健三

「へへ…、ならマゾ女らしく…いやらしくイッてみるっ！」



パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!。



魔夜基子

「あああ・あつ!!、ああん・つ!!、ああ・つ!!、ああ・つ!!、あああ・あつ!!、ああん・つ!!、ああ・つ!!、
ああ・つ!!、あああ・あつ!!、ああん・つ!!」



亀井健三

「はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!」



魔夜基子

「はあんっ!!、ああっ!!、ああっ!!、深いっっんああっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、ヤバイこれっっああっっイキそっツ!っああああっ!!、あっ!!、あっ!!、ああああっ!!」



亀井健三

「はあっ!!、はあっ!!、ああっ!! イケこのっ!!、
ああっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、イケっ!!、イケっ!!、イケっ!!」



ブジュウ…ツ!!、ジュブ…ツ!!、ズブ…ツ!!、ズブ…ツ!!、ジュブ…ツ!!、ブジュウ…ツ!!、ブジュウ…ツ!!。



魔夜基子

「ああんっ!!、ああっあああっ!!、ああっ!!、あっ!!、あああっ!!、
イグっ!!、あああっ!!、イグイグっ!!。
あっ!!、あっ!!、あっ!!、あっ!!、んああああああっ!!」



亀井健三

「はあっっ!!、はあっっ!!、はあっっ!!、はあっっ!!、はあっっ!!、はあっっ!!、はあっっ!!、
くっうううっ!!・あああああああああああっ!!」



ビュルルルルルルルルルルウウウ!!。



魔夜基子
「んあああああああああああ——っ!!」



ガクガクガクガク…ツ!!。



基子はシーツを強く握りしめながら体を激しく衝動させる。



ドク…ツ!!、ドク…ツ!!、ドクドク…ツ!!。



亀井健三

「はあ……あ……くう……ああ……あ……!!」



魔夜基子

「ああ…!!…………くう…………ああ…あ…………あつ!!……はあ…………あ…あつ!!」



亀井健三

「..はあ.....はあ.....はあ.....はあ.....ふう.....」



亀井は射精を終えてすぐ、今だ絶頂の快感に悶え続ける基子に対し。。



グイッ!



亀井健三

「ほら……はあ……はあ……、
あっしの中出しでイッチまってる姉さんのドスケベ面……よく見せてくだせえ……」



魔夜基子

「へはあっ!!.....ああ.....ああ...あつ!!.....あ.....あ.....ああ...あつ!!」



ビクン…ッ!、…ビク…ビクン…ッ! …ビク……ビク……。



亀井健三

「おう・・・イッてるイッてる・・・。
気持ち良くイキ過ぎたせいで中々帰ってこれねえみてえですなあ・・・」



涎を垂らしながらしつこく痙攣し続ける基子の体。



魔夜基子

(何か・変……。イケばイクほど・絶頂から戻れなくなってる……)



亀井健三

「このまますぐに突きまくったら、姉さんはどうなっちゃうんでしょうねえ…？」



魔夜基子
(ゾクリッ...)



亀井健三

「へへ…、あっしがもっと姉さんの体をいやらしくしてあげやすよ…」



亀井がそう言うと……。



パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!。



魔夜基子

「ああああっ!!、ああっあああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、あああっ!!、あああっ!!、
あああっ!!、んあああっ!!」



亀井健三

「はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!」



基子の衝動が収まるのを待たず、再び腰を激しく打ち付け始めた亀井。



亀井健三

「はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、そらっ!!…狂っちまいそうだなっ!!」



魔夜基子

「ああんっ!!、あああっ!!、ああああんっ!!、だめっ!!、んああっ!!、はああっ!!、
ああああっ!!、こんなのっっおがしくなっちゃうっ!!」



亀井健三
「だが…それがいいんだろ…?!」



ブジュウ・ツ!!、ブジュウ・ツ!!、ブジュウ・ツ!!、ブジュウ・ツ!!、ブジュウ・ツ!!、ブジュウ・ツ!!。



魔夜基子

「ああああっ!!、んあああっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、ああああっ!!、ああっ!!、
んああっ!!、ああんっ!!、ああああっ!!」



射精したままの精液が子宮の中でかき回され、
結合部からはブジュブジュと下品な音が漏れ出ている。



亀井健三

「はぁっ!!、はぁっ!!、はぁっ!!、こんな女…一生萎える気がしねえぜっ!!。
そらっ!! 分かるか?…射精したばっかなのにずっとガチガチだろっ!!」



魔夜基子

「ああんっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、分かるっツ! ガチガチおちんちんっ..凄すぎるっ♥!!
あああっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、凄すぎてっ..ああっ!!、あああっ!!、またっ!!」



亀井健三

「はぁっ!!、はぁっ!!、はぁっ!!、イキたいのか?!!」



魔夜基子

「あああっ!!、ああっああんっ!!、イキたいっ!! あああああっ!!イギたいれすっ!!」



亀井健三
「そんじゃあ…言うことは分かるな…?!」



魔夜基子

「はいっ!!、ああああっ!!、ああんっ!!、
亀井様のデカ過ぎガチガチおちんちんで私の中をもっとかき回してください!!
突いてっ..突いてっ..突いてっ..突きまくってイガせてくださいっ!!」



亀井健三
(ゾクゾクゾクッ!!)



亀井健三

「へへ…どうしようもねえマゾ牛女だぜ…！、
よおし…ついでに俺の出来たてザーメンも注いでやるからな…っ！」



魔夜基子

「ありがとうございますっ♡!!、ああああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、
まだっっ濃いのいっぱいくださいっ♡!!」



魔夜基子
(もう…このままどうなったっていい…!!)



パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!。



魔夜基子

「ああんっ!!、ああんっ!!、あああっ!!、あああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、
ああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、あああっ!!」



亀井健三

「はあっっっ!!、はあっっっ!!、はあっっっ!!、はあっっっ!!、はあっっっ!!、はあっっっ!!、はあっっっ!!」



魔夜基子

「ああああっ!!、あああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、あああっ!!、飛ぶっ!!、
あああっ!!、あああっ!!、ああんっ!!、あああっ!!、あああっ!!、意識飛んじゃうっ!!」



亀井健三

「いいぞっ!、っ飛べっ!!っあああっぶっ飛べっ!!っ乳吹きながらぶっ飛べっ!!。
はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、はあっ!!、あああああああっ!!」



パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!、パンツっっ!!。



魔夜基子

「ああんっ!!、ああんっ!!、ああんっ!!、ああっ!!、ああっ!!、ああんっ!!、
ああっ!!、あああっ!!、ああああああああっ!!」



魔夜基子

「んあああああああああ——っ!!」



亀井健三
「ぐあああああああああ——つ!!」



ドクドクドク・・・ツ!!。



新鮮な濃厚精液が継ぎ足され、基子の中を埋め尽くす。



魔夜基子

「…ああ…っ!!…………ああ…っ!!…………うあ…っ!!…………あ…っ!!…………ああ…っあ!!」

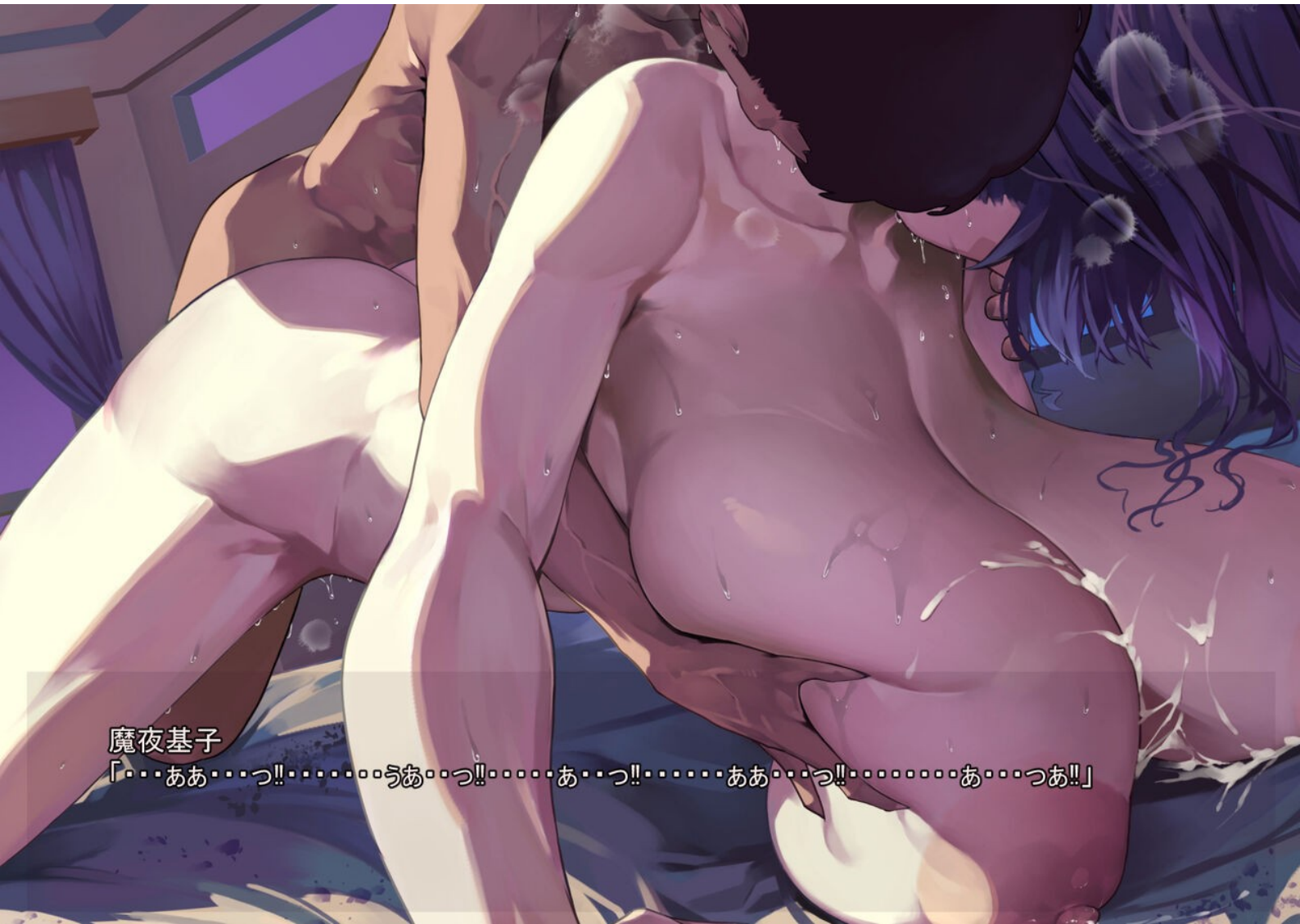


亀井健三

「..はあ.....はあ.....はあ.....はあ.....はあ.....はあ.....」

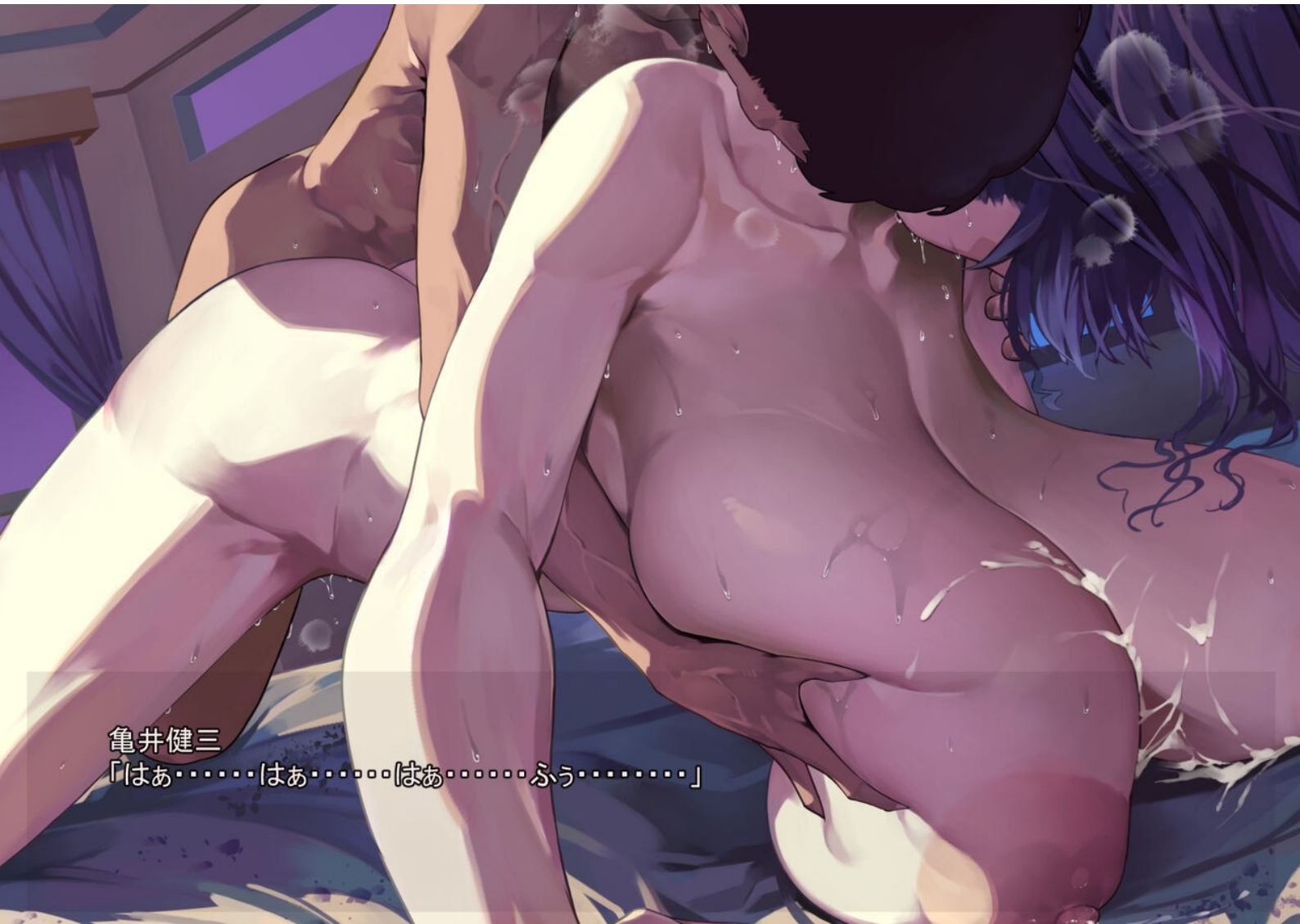


ビクン…ッ!!…ビクン…ッ!!、…ビクビク…ッ!!、ビクン…ッ!!、ビク…ビクン…ッ!!。



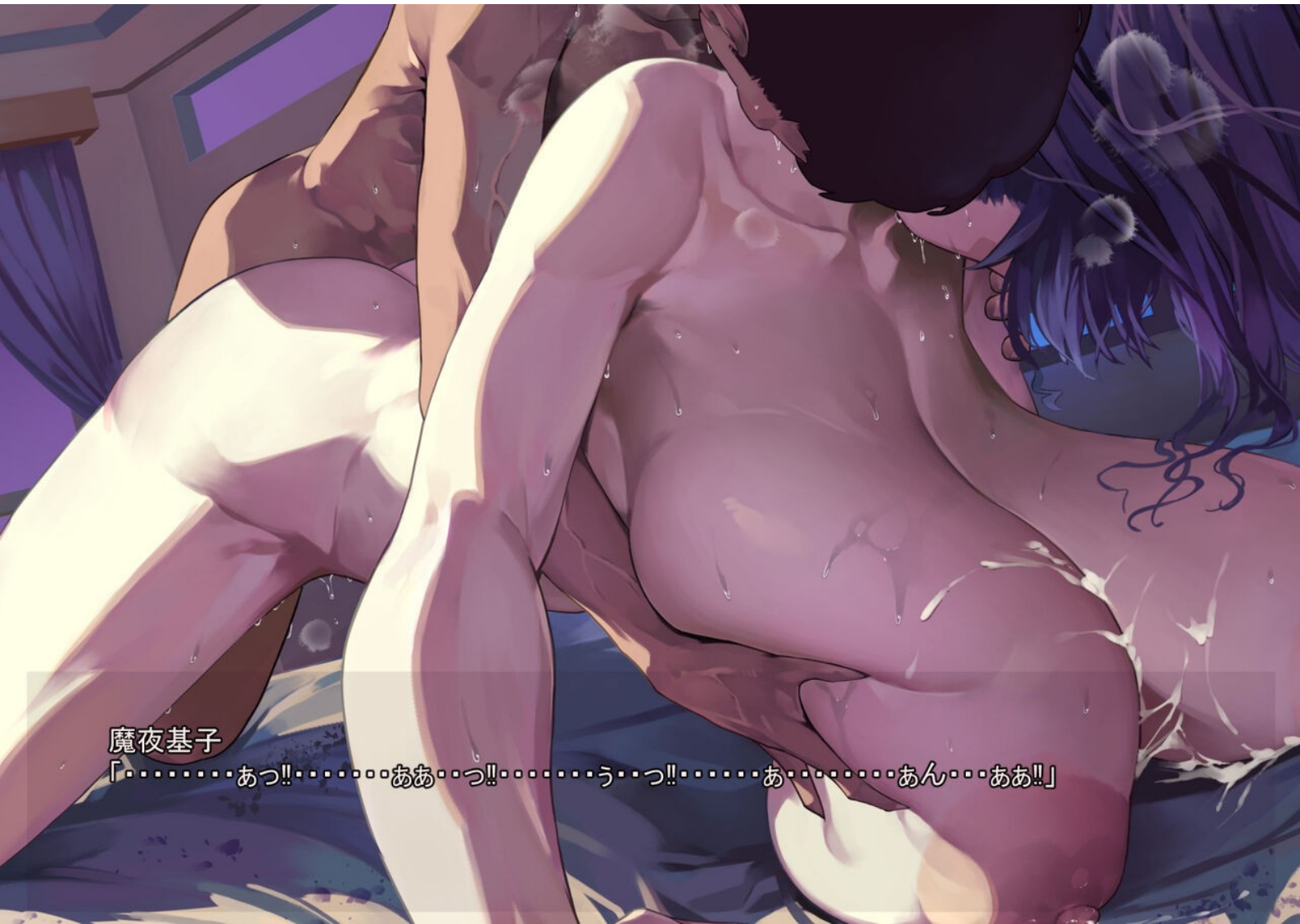
魔夜基子

「…ああ…っ!!…………うあ…っ!!…あ…っ!!…………ああ…っ!!…………あ…っあ!!」



亀井健三

「はあ……はあ……はあ……ふう……」



魔夜基子

「…………あつ!!…………ああ…つ!!…………う…つ!!…………あ…………あん…ああ!!」



ビク…ツ!!…ビクビクン…ツ!!、…ビクン…ツ!!、…ビクン…ツ!!、…ビクン…ツ!!。

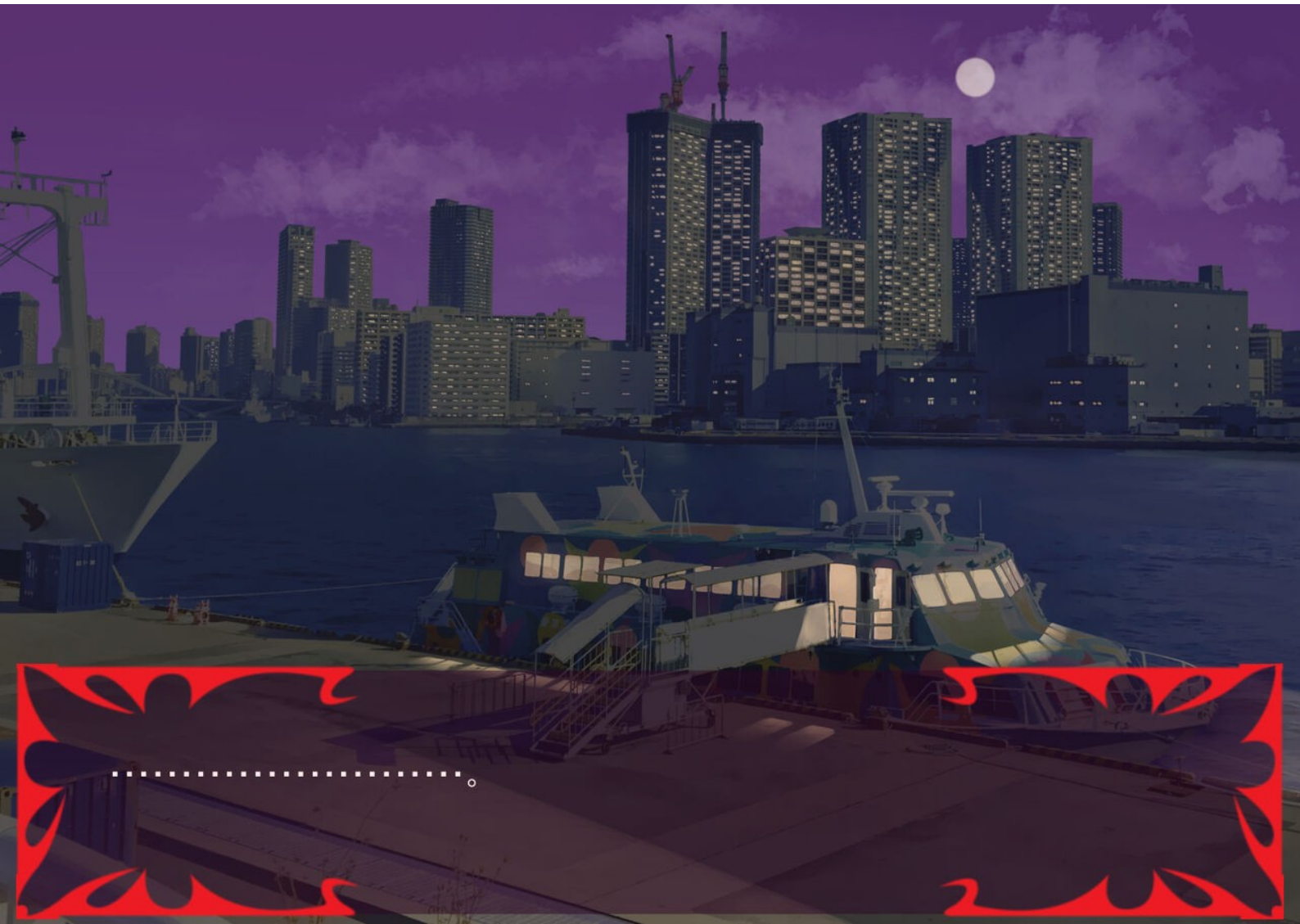


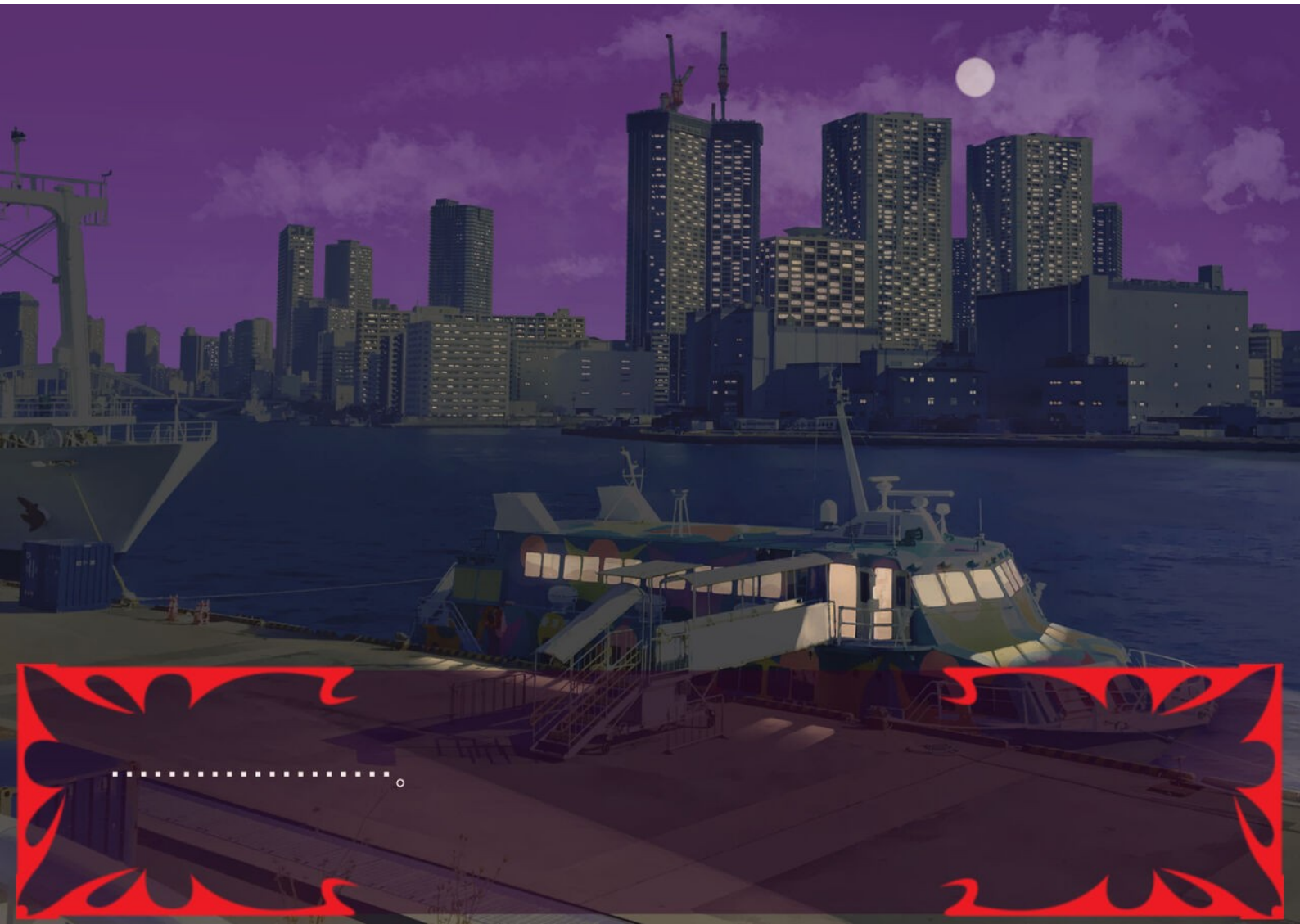






ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪、ズンチャ♪…。







zzz.....。









ガチャ…ガチャ…。



魔夜基子

「.....」



翌日、10月17日5時37分、基子帰宅……。



◇あらすじ

便利屋として活動する最強(最胸)のエージェント魔夜基子。

2児の母となり、エージェント業の引退を考えていた基子に大きな依頼が舞い込んできた。



その任務で会うことになったのが亀井健三という情報屋。
腕は確かだが、太鼓持ちで卑屈な一面から頼りなく見えるこの男。
しかしその本質は、乳房の大きな女性を好む乳マニアでもあった。



亀井は以前から基子に強い執着心を持っており、その機会を伺っていた。
そして今回、急接近を試みるも見事に振られてしまう。
さらに、任務でのスパイ行為が発覚し、基子からの信頼を完全に失うことに。



焦りを感じた亀井だったが、悪知恵を働かせた弁解によって、何とか仲間としての復帰を認められる。



そして、今回の重大任務が無事に幕を閉じた後…。亀井が再び基子に接近。
基子の欲している情報と協力を提供し、
その代価として遂に基子の豊満な肉体を貪ることに成功する。



ベッドの上で基子は、本当の亀井健三を知ることになったのだ……。